

「質的調査」

1. 観察法

「人間の行動を注意深く見ることによって対象者を理解しようとする方法」

- ・ 自然的観察法：人間の行動を自然の状況下でありのまま観察する方法
- ・ 実験的観察法：ある行動に影響すると思われる条件を系列的に変化させることによって（独立変数の変化）それに伴う行動や内的状態の変化（従属変数の変化）を観察し因果関係を調べる方法

- ・ 機能的観察：新たな法則を作るために行われる
 - ・ 演繹的観察：既存の法則の妥当性や、現象が法則に従って起きているか調べる
- 自然的観察法は研究の予備的なものとして捉えられてきたが、心理学的法則を人間の生活につなぎとめる大切な作業として認識する必要がある

サンプリング

- ・ 観察対象のサンプリング
- ・ 観察単位のサンプリング

組織的観察... 2つのサンプリングの方法を明確にした上で行う観察

時間見本法：ある一定の時間内、時点での観察すべき行動を抽出する方法

場面見本法：ある行動が生起しそうな場面などを選択し、その場面での行動を観察する方法

事象見本法：ある特定の事象や行動の生起のしかたなどを観察する方法

日常的観察(偶然的観察)... 日常生活で偶発的に遭遇した出来事を記録する観察

日誌法：ある特定の個人を日常的な行動の流れの中で観察記録する方法

記録方法

- ・ 行動目録法：事前に起こりそうまたは観察したい行動のカテゴリーを作成し、その行動が生じた度にチェックを行う方法
- ・ 評定尺度法：あらかじめ設定した評定尺度によって、観察すべき行動や個人の態度、雰囲気などの強さを評定する方法。観察者の印象による部分が多い
- ・ 行動描写法：その状況で生じている全ての行動を時間的な流れに沿って自由記述する方法。

留意点

妥当性の問題

- ・ 研究目的を明確に設定することが大事
- ・ 観察方法や記録方法の検討

信頼性の問題

- ・ 観察者のバイアスのかかった観察結果ではない
- ・ 事前の観察者訓練の重要性

観察者の存在の影響

- ・ 観察者の存在を意識することによって、いつもとは異なる行動をとる可能性
- ・ 対象者に観察者が気付かれぬように工夫 or 対象者から観察されているという意識を拭い去る工夫

2. 面接法

「比較的自由で制限の少ない状況下で、対象者と対面して話し合い観察する方法」
非言語的情報を得ることができる
コミュニケーション場面であるため人間の内的世界をより深く具体的に捉えることが可能である

臨床的面接：心理療法など

調査的面接

- ・ 構造化面接：あらかじめ質問項目が準備されており、それを逐一聞きだすもの
- ・ 半構造化面接：あらかじめ質問項目は準備されるが柔軟にそれを変化させるもの
- ・ 非構造化面接：話の流れに応じて面接を方向付けていくもの

集団面接

- ・ 面接場面の緊張緩和 ・ 話を思い出すきっかけ ・ 事実関係の確認可能などの利点

面接法の実際

- ・ 研究目的との対応から面接を進めていく必要がある
面接者の基本的態度は明確にしておく必要がある
- ・ 比較的少ない人数に対して深く調査をする事例的研究となることが多い
対象者のサンプリングが研究目的と合致するか検討する必要性
- ・ 落ち着いて話ができる場所、対象者が面接以外のことで緊張しない場所を面接場所として設定する
- ・ 面接の中で対象者との親和的で信頼のおける関係（ラポール）の形成に努める
- ・ 対象者が面接を通して、豊かな意味内容を含んだ体験として言語化するように語りを引き出していき より深い水準へと進むことが可能
- ・ 対象者にはこれまでの価値観や態度、経験などは通用しない
対象者の変化に敏感に反応できるようにする
- ・ 面接によって得られる具体的出来事の資料とそれぞれの体験を深く聴取した資料の両者を過不足なく収集すること 面接によって得られた資料の公共性